

本庄市埋蔵文化財調査報告 第20集 第2分冊

埼玉県本庄市

前田甲遺跡発掘調査報告書

～県営ほ場整備事業児玉北部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査 II～

—遺物編—

本庄市教育委員会

本庄市埋蔵文化財調査報告 第20集 第2分冊

埼玉県本庄市

前田甲遺跡発掘調査報告書

～県営ほ場整備事業児玉北部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査 II～

—遺物編—

本庄市教育委員会

序 文

かつて、本庄市には一面に広がる桑畑の風景が見られました。それは本庄市の産業を反映した原風景ともいえます。しかし、現在では各種開発や市街地の拡充とともに、のどかな風景は少なくなりつつあります。ここ数年の出来事ですが、本庄市の歴史が大きく変わろうとしているように思われます。

この報告書は、土地改良事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査の結果をまとめたものですが、これを見ますと、市内にはまだまだ広大な田畑があることを改めて感じました。

調査担当者が話すところでは、これらの田畑も千数百年前に開拓されたとのことで、歴史の深さを痛感します。

私たちの本庄市は、一万数千年の歴史を持ちます。この気の遠くなるような時間をかけて、今日の本庄市があるわけですが、各時代に生きた祖先の人々が残した文化遺産を守り継承することは、現在に生きる我々の責務であります。

本年度はわが本庄市の一大事業の一つである『本庄市史』も完結することになりました。全巻の厚さは24cm。ここに一万数千年の歴史が集約されているわけですが、それでも毎年、新たな資料が蓄積されつつあります。それは発掘調査によるものです。

ますます変化のはげしくなる現在において、文化財保護行政が担う責務はより大きくなるものと思われませんが、今後も新たな歴史の発見や、活用になお一層努力する所存であります。

最後に、日頃ご指導を賜っている埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の皆様方をはじめ、風雪酷暑の中、調査にご協力をいただきました作業員の方々に、心からお礼を申し上げます。

平成7年3月20日

本庄市教育委員会 教育長

塩 原 暁

例 言

- 1、本書は、平成2年度に本庄市教育委員会が実施した県営ほ場整備事業児玉北部地区（本庄市側）に伴う前田甲遺跡発掘調査報告書～遺物編～である。
- 2、本書は、平成2年度実施の当該事業予定地にかかる報告の他、平成3年度に実施された県営ほ場整備事業児玉北部地区（本庄市側）で判明した将監塚東遺跡の報告を付記する。
- 3、調査に至る経緯と経過は第1分冊に記したとおりである。
- 4、本書は分冊形式で報告したため、その内容は下記のとおりである。
 - 第1分冊 I 調査に至る経緯と経過
 - II 遺構の調査
 - III 小 考
 - 第2分冊 IV 遺 物
 - V 付・将監塚東遺跡の調査
 - VI 総 括
- 5、本書の執筆・編集は文化財保護係である増田一裕が担当した。
- 6、本事業にかかる予算対応並びに実施方法等については、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の鈴木敏昭係長及び、中島 宏主査のご指導により実施した。
- 7、平成6年度にかかる調査（整理）の組織は下記のとおりである。

本庄市教育委員会

教育長 塩原 暁

本庄市教育委員会事務局

事務局長 荒井 正夫

社会教育課

課 長 中島 正和

課長補佐 吉田 敬一

文化財保護係

係 長 長谷川 勇

主 事 佐藤 好司

主 任 増田 一裕

主事補 遠藤 優子

主 事 太田 博之

- 6、本書の刊行に際しては、以下の諸氏よりご教示を賜った。記して感謝します。また、本庄埋蔵文化財センターの関根典子、久保田かつ子、滝沢美智子、我妻きよみ、日向みどりの各氏には復原と実測等の細密作業を実行していただいた。ここに記して感謝します。

鈴木 徳雄 恋河内昭彦 徳山寿樹 外尾常人 丸山 修
大熊季広 村田健二 井上尚明

目 次

序 文	
例 言	
目 次	
IV 遺 物	41
1 遺物の整理内容	41
2 遺物観察表	41
(1)前田甲遺跡A地点の遺物	41
(2)前田甲遺跡B地点の遺物	51
(3)前田甲遺跡A地点保存地区の遺物	56
(4)その他の遺物	57
V 付・符監塚東遺跡（松島甲地区）の調査	74
1 調査の経緯と経過	74
2 遺構と遺物	75
VI 総 括	79
おわりに	
写真図版	

IV 遺 物

1 遺物の整理内容

第1分冊で記したように、本遺跡は2地点にわかれる。出土した遺物の多くは両地点に分布する住居址内より検出されたもので、大半は古墳時代土師器にあたる。特に、A地点第9号住居址からは多量の土器が廃棄遺棄状態で検出されていた。時期的には和泉式期から鬼高Ⅱ式期にかかる。

これらの遺物観察については、以下のとおり実測図と観察表を整理した。

- ・土器は壺、甕、甔、埴、高坏、坏、その他の順に掲載した。
 - ・土師器等の断面は白ぬきとし、須恵器は断面にアミをかけた。
 - ・法量はセンチメートルを基準とし、それぞれの最大数値を記入し、括弧内は復原数値とした。
 - ・観察表の番号は遺物図面番号に共通する。
 - ・観察表の特徴の項目は胎土、技法、焼成、色調、使用痕、出土位置、残存量の順に記し、この内、出土位置についてはカマド内、床面直上(床直)とした。また、特に記載のないものは覆土内により出土したものである。
 - ・特徴の項目中のNoは第1分冊において、遺構実測図内に記入した遺物Noと共通する。
- なお、紙面の都合上すべての遺物を記載することができなかったが、基本的なものは極力掲載した。

2 遺物観察表

(1) 前田甲遺跡A地点の遺物

A地点第1号住居址遺物観察表(第30図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	壺	口径 18.2 器高 26.6	胎土；褐鉄粒、白色粒子、角閃石、石英、砂粒。整形；底部及び胴部外面へラ削り、底部及び胴部内面ナデ、口縁部内外面ナデ。焼成；普通、外面胴部黒斑。残存量；ほぼ完形。1a号住居址、No 8。
2	小壺	口径 12.2 器高 10.7	胎土；褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形；底部及び胴部外面へラ削り、内面・底部及び胴部へラ削り。口縁部、内外ヨコナデ。焼成；普通、外面胴部黒斑。残存量；2/5。1a号住居址、No 7。
3	坏	口径 13.4 器高 3.7	胎土；白色粒子、角閃石、砂粒。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、底部内外面スス付着。残存量；1/2。1a号住居址、No 4。
4	坏	口径 13.1 器高(4.5)	胎土；白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/4。1a号住居址、No 5。

番号	器種	法 量	特 徴
5	坏	口径(10.8) 器高 4.8	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形；底部外面ヘラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；底部3/4、口縁部1/4。1A号住居址、№2。
6	坏	口径 12.0 器高 4.7	胎土；白色粒子、褐鉄粒、石英、雲母。整形；底部外面ヘラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、外面底部黒斑。残存量；完形。1b号住居址、№1。
7	坏	口径(11.9) 器高 4.3	胎土；白色粒子、褐鉄粒、砂粒、角閃石。整形；底部外面ヘラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/2。1号住居址覆土。
8	坏	口径(11.2) 器高 3.7	胎土；褐鉄粒、白色粒子、砂粒。整形；底部外面ヘラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/2。1号住居址覆土。

A地点第2号住居址遺物観察表 (第30・31回)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径(17.3) 器高(21.0以上)	胎土；白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形；胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ナデ。焼成；普通、外面胴部及び口縁部黒斑。残存量；1/2。2b号住居址、№13+14+17+18。
2	甕	口径 14.8 器高(19.5以上)	胎土；褐鉄粒、白色粒子、角閃石、石英、小石。整形；胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、外面胴部スス付着。残存量；1/2。2b号住居址、№11。
3	甕	口径(17.2) 器高(22.1以上)	胎土；白色粒子、褐鉄粒、角閃石、砂粒、小石。整形；胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/2。2b号住居址、№8。
4	甕	口径(16.0) 器高(24.2以上)	胎土；褐鉄粒、角閃石、石英、砂粒。整形；胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、外面黒斑、内面スス付着。残存量；1/4。2b号住居址、№14+18+19 (№19主体)。
5	甕	口径(17.0) 器高(30.0以上)	胎土；褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子、砂粒。整形；外面胴部ヘラ削り、面胴部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、外面胴部黒斑。残存量；1/2。2b号住居址、№19。
6	甕	口径 13.5 器高 29.7	胎土；褐鉄粒、石英、小石。整形；底部・胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、外面胴部黒斑。残存量；ほぼ完形。2b号住居址カマド内、№20。
7	甕	口径 19.9 器高(21.5以上)	胎土；白色粒子、石英、褐鉄粒、砂粒、小石。整形；胴部外面ヘラ削り、内面胴部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、胴部外面黒斑。残存量；1/4。2b号住居址、№19。
8	甕	口径(16.4) 器高(11.4以上)	胎土；褐鉄粒、角閃石、石英、砂粒、小石。整形；胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/3。2b号住居址、№2。
9	坏	口径 11.8 器高 7.6	胎土；褐鉄粒、角閃石、石英、砂粒、白色粒子、小石。整形；底部・胴部外面ヘラ削り、内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、スス付着。残存量；完形。2b号住居址、カマド内支脚。

A地点第3号住居址遺物観察表 (第31図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	環	口径 12.8 器高 4.8	胎土：褐鉄粒、白色粒子、角閃石、石英。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁無内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：ほぼ完形、口縁部一部欠損。№3。
2	環	口径 11.4 器高 3.8	胎土：褐鉄粒、白色粒子、角閃石、石英。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部外面全体に黒斑。残存量：4/5。№1。

A地点第4号住居址遺物観察表 (第32図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径 22.0 器高 39.6	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石、砂粒。整形：底部外面及び胴部へラ削り、底部内面及び胴部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部及び胴部外面下位に炭化物付着。残存量：ほぼ完形。4号住居址、№24+25+26 (№26主体)。
2	甕	口径 19.8 器高(26.2以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、角閃石、石英、砂粒。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面黒斑。残存量：3/4。4a号住居址、№25。
3	甕	口径 20.3 器高(35.0以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石、砂粒。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。胴部外面炭化物付着。残存量：3/4。4号住居址、№24。
4	高環	口径 14.4 器高(4.7以上)	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石、小石。整形：环底部外面へラ削り、环底部内面ナデ、环口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、环底部・口縁部炭化物付着。残存量：胴部欠損。4b号住居址、№16。
5	環	口径(8.2) 器高(4.3)	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、砂粒。整形：内外面ともナデ、指頭匠痕手捏ね。焼成：普通。残存量：1/2。4b号住居址、覆土。
6	環	口径 11.8 器高 3.6	胎土：褐鉄粒、石英、砂粒。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：ほぼ完形。4号住居址、№16。
7	環	口径 11.7 器高 3.7	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：完形。4号住居址、№1。
8	環	口径(12.2) 器高(3.8以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/2。4号住居址、№3。
9	環	口径 12.4 器高 4.1	胎土：白色粒子、褐鉄粒。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：ほぼ完形。4号住居址、№22。
10	環	口径 12.4 器高 4.0	胎土：褐鉄粒多量、白色粒子、石英。整形：底部外面へラ削り、内面底部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部外面及び口縁部に黒斑。残存量：ほぼ完形。4号住居址、№17。
11	環	口径 12.3 器高 4.0	胎土：白色粒子、褐鉄粒。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：完形。4号住居址、№18。

A地点第5号住居址遺物観察表 (第33図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甔	口径(25.0) 器高 28.0	胎土：角閃石、石英、白色粒子、砂粒。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、黒斑。残存量：3/5。5号住居址、No.3。
2	小甕	口径 12.4 器高 9.7	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形：底部及び胴部外面へラ削り、底部及び胴部内面ヨコナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部・胴部外面下位にスス付着、内面炭化物付着。残存量：ほぼ完形。5号住居址、No.1。
3	高坏	口径 不明 器高(11.0以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形：脚部及び坏底部外面へラ削り、脚部及び坏部内面ナデ。焼成：普通。残存量：1/2。5号住居址、No.1。
4	坏	口径(15.0) 器高 7.0	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：4/5。5号住居址、覆土。

A地点第6号住居址遺物観察表 (第33図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径(22.3) 器高(11.2以上)	胎土：褐鉄粒、角閃石、石英、雲母。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、内外面にスス付着。残存量：1/3。6号住居址、No.1。

A地点第7号住居址遺物観察表 (第33図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	坏	口径 12.5 器高 4.7	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、砂粒。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部外面黒斑。残存量：ほぼ完形。7号住居址、覆土。

A地点第9a号住居址遺物観察表 (第33・34図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	小甕	口径 15.0 器高(14.0以上)	胎土：褐鉄粒、角閃石、石英、砂粒、小石。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/2。9a号住居址カマド、No.2。
2	小甕	口径 16.3 器高 12.4	胎土：褐鉄粒、角閃石、小石。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：3/4。9a号住居址カマド。
3	甕	口径 不明 器高(6.3以上)	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形：胴部外面へラ削り、底部外面ナデ。焼成：普通。残存量：1/3。9a号住居址カマド内。椀か？。
4	甕	口径 16.0 器高 28.6	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形：底部及び胴部外面へラ削り、底部及び胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面炭化物付着。残存量：ほぼ完形。9a号住居址カマド。
5	甕	口径(15.6) 器高 25.6	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形：底部及び胴部外面へラ削り、底部及び胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面黒斑。残存量：1/2。9a号住居址カマド。

番号	器種	法 量	特 徴
6	甕	口径 15.9 器高 12.8	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形：胴部外面へラ削り、底部外面指頭圧痕、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面黒斑、胴部内面スス付着。残存量：ほぼ完形。9a号住居址カマド。
7	坏	口径 14.3 器高 7.8	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、砂粒、角閃石。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ後暗文、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、外面黒斑、内面炭化物付着。残存量：完形。9a号住居址、№3。

A地点第9b号住居址遺物観察表（第34～37図）

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径 16.4 器高(18.1以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、角閃石、石英、砂粒。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/2。9b号住居址、№1。
2	甕	口径 19.4 器高(28.0以上)	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、小石。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：底部欠損。9b号住居址、№21+22。
3	甕	口径 17.2 器高 32.8	胎土：褐鉄粒、白色粒子、角閃石、石英、小石。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面炭化物付着。残存量：ほぼ完形。9b号住居址、№14。
4	甕	口径 35.1 器高(21.2以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石、砂粒。整形：胴部外面ナデ後へラ調整、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面黒斑。残存量：1/3。9b号住居址、№16。
5	甕	口径 不明 器高(28.0以上)	胎土：褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子、砂粒。整形：胴部及び底部外面へラ削り、胴部内面ナデ。焼成：普通、黒斑。残存量：1/2。9b号住居址、№17+18（№17主体）。
6	甕	口径 17.4 器高(13.1以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、角閃石、石英。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ。焼成：普通。残存量：1/3。9b号住居址、№4。
7	小甕	口径 12.7 器高 9.8	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石、小石。整形：胴部及び底部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、口縁部及び胴部外面黒斑。残存量：ほぼ完形。9b号住居址、№2。
8	小甕	口径 11.0 器高 13.6	胎土：白色粒子、褐鉄粒、小石、砂粒、角閃石。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：胴部及び口縁部一部欠損。9b号住居址、№10。
9	小甕	口径 11.2 器高(12.6以上)	胎土：褐鉄粒、角閃石、白色粒子、砂粒。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：2/3。9b号住居址、№3+22+26+27+29+30（№3主体）。
10	小甕	口径 10.9 器高 17.2	胎土：褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子、砂粒。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：胴部一部欠損。9b号住居址、№18。
11	坏	口径(14.0) 器高(9.2)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石、小石。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部内面上位及び口縁部に環状スス付着。底部外面炭化物付着。残存量：1/2。9b号住居址、№29。

番号	器種	法 量	特 徴
12	小鉢	口径(16.4) 器高 9.7	胎土：褐鉄粒、角閃石、石英、砂粒、白色粒子。整形；底部及び胴部外面へラ削り。口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/2。9b号住居址、No41。
13	小鉢	口径(15.4) 器高 10.4	胎土：褐鉄粒、白色粒子、角閃石、石英、小石。整形；底部及び胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；2/5。9b号住居址、No29。
14	鉢	口径(27.8) 器高 15.1	胎土；白色粒子、角閃石、砂粒、褐鉄粒多量。整形；底部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、胴部外面一部黒斑。残存量；1/3。9b号住居址、No11。
15	台付 小甕	口径 14.9 器高 11.5	胎土；褐鉄粒、角閃石、白色粒子、石英、砂粒。整形；台部外面ヨコナデ、胴部下半外面ナデ・指頭旺盛、胴部上半外面へラ削り後ナデ、台部内面ヨコナデ、胴部内面ナデ後へラ調整。口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、胴部上位内面及び口縁部に塵状炭化物。残存量；4/5。9b号住居址、No45。
16	小形 甕	口径 18.5 器高 15.4	胎土；白色粒子、褐鉄粒、砂粒、角閃石、石英。整形；底部及び胴部外面へラ削り、底部及び胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、胴部外面炭化物付着。残存量；ほぼ完形。9b号住居址、No12。
17	甕	口径 不明 器高(32.4以上)	胎土；褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子、砂粒、小石。整形；胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、胴部黒斑。残存量；口縁部欠損。9b号住居址、No8+14 (No8主体)。
18	坏	口径(12.0) 器高 4.3	胎土；白色粒子、褐鉄粒、角閃石、砂粒。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/5。9b号住居址、No25。
19	坏	口径 11.8 器高 4.4	胎土；褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、底部外面黒斑。残存量3/4。9b号住居址、No28。
20	坏	口径 13.3 器高 4.4	胎土；白色粒子、褐鉄粒、角閃石、砂粒、小石、石英。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；ほぼ完形。9b号住居址、No24。
21	坏	口径 14.3 器高 4.1	胎土；褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子、砂粒。整形；底部外面へラ削り後ナデ、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/2。9b号住居址、No31。
22	坏	口径 13.2 器高 4.2	胎土；褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子。整形；底部外面へラ削り後ナデ、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；ほぼ完形。9b号住居址、No19。
23	坏	口径(12.0) 器高 4.5	胎土；褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/2。9b号住居址、No34。
24	坏	口径(12.3) 器高 4.4	胎土；褐鉄粒、角閃石、石英、雲母。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；3/4。9b号住居址、No29+32+41 (No32主体)。

番号	器種	法 量	特 徴
25	坏	口径 13.2 器高 5.4	胎土：褐鉄粒、白色粒子、角閃石、石英。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：3/4。9b号住居址、No.6。
24	坏	口径(12.4) 器高 4.1	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、砂粒。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部外面及び口縁部黒斑。残存量：2/3。9b号住居址、No.1。
27	坏	口径(13.0) 器高 6.0	胎土：褐鉄粒、白色粒子、角閃石、雲母。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部内外面炭化物付着。残存量：1/2。9b号住居址、No.27。
28	坏	口径 13.5 器高 4.7	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部外面黒斑。残存量：完形。9b号住居址、No.33。
29	坏	口径 12.9 器高 4.5	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、砂粒。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：4/5。9b号住居址、No.34+38・カマド (No.34主体)。
30	手捏 ね	口径 6.4 器高 3.2	胎土：白色粒子、角閃石、褐鉄粒、石英、砂粒。整形：内外面指頭圧痕、ナデ。焼成：普通。残存量：2/3。9b号住居址覆土。

A地点第9c号住居址遺物観察表 (第37回)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径(19.0) 器高(25.2以上)	胎土：白色粒子、褐鉄粒、角閃石、石英。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/3。9c号住居址、No.42+43 (9b号住居址内No.42主体)。
2	坏	口径 12.8 器高 2.9	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/3。9c号住居址、No.6。
3	坏	口径(12.2) 器高	胎土：褐鉄粒、白色粒子、砂粒。整形：口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：2/3。9c号住居址覆土。
4	坏	口径 12.5 器高 3.7	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、口縁部外面黒斑。残存量：2/3。9c号住居址、No.3。
5	坏	口径 12.6 器高 3.9	胎土：褐鉄粒多量、白色粒子、石英。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、口縁部外面黒斑。残存量：3/4。9c号住居址、No.1。
6	須恵 器坏	口径 12.7 器高 3.7	胎土：白色粒子、石英、褐鉄粒、小石。整形：底部糸切り、口縁部内外面回転ヨコナデ。焼成：普通。残存量：ほぼ完形。9c号住居址、No.5。
7	須恵 器坏	口径 12.2 器高 3.6	胎土：褐鉄粒、白色粒子、小石。整形：底部外面糸切り、口縁部内外面回転ヨコナデ。焼成：普通。残存量：2/3。9c号住居址、No.4。

A地点第11号住居址遺物観察表 (第37・38回)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径(23.9) 器高(15.7以上)	胎土：白色粒子、褐鉄粒、角閃石、石英、砂粒。整形；胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/4。11号住居址、No22。
2	甕	口径 22.0 器高(7.7以上)	胎土：白色粒子、角閃石、褐鉄粒、砂粒、石英。整形；胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/5。11号住居址、No21。
3	甕	口径(22.6) 器高(9.3以上)	胎土；褐鉄粒、角閃石、白色粒子、石英、砂粒。整形；胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ及び凹縁。焼成；普通。残存量；1/5。11号住居址、No20。
4	甕	口径(22.0) 器高(11.0以上)	胎土；褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子、砂粒。整形；胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ及び凹縁。焼成；普通。残存量；1/5。11号住居址、No24。
5	坏	口径 13.1 器高 3.1	胎土；白色粒子、褐鉄粒、角閃石、石英、砂粒。整形；底部外面ヘラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；2/3。11号住居址、No18。
6	坏	口径 12.8 器高 3.5	胎土；白色粒子、角閃石、褐鉄粒、石英、砂粒。整形；底部外面ヘラ削り。底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/3。11号住居址、No14。
7	坏	口径(12.7) 器高 3.2	胎土；白色粒子、角閃石、石英。整形；底部外面ヘラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/2。11号住居址、No10。
8	坏	口径 17.2 器高 6.3	胎土；褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形；底部外面ヘラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；3/4。11号住居址、No12。

A地点第12号住居址遺物観察表 (第38回)

番号	器種	法 量	特 徴
1	小甕	口径(11.5) 器高 11.1	胎土；白色粒子、褐鉄粒、角閃石、砂粒、小石。整形；胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/2。12b号住居址、カマド南。
2	坏	口径(12.2) 器高 4.3	胎土；白色粒子、石英、褐鉄粒、砂粒、角閃石。整形；底部外面ヘラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/3。12a号住居址、No 1。

A地点第13号住居址遺物観察表 (第38回)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径 14.5 器高(5.7以上)	胎土；白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石、小石。整形；胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、胴部外面黒斑。残存量；1/4。13号住居址、覆土。
2	高坏	口径 1 器高()	胎土；白色粒子、褐鉄粒、角閃石、砂粒、小石。整形；坏底部外面ヘラ削り、坏底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。 【注意 2 + 3 は同一】

A地点第14号住居址遺物観察表 (第38図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径(16.0) 器高(8.6以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、角閃石、砂粒。整形：胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面及び口縁部黒斑。残存量：1/2。14号住居址、覆土。
2	碗	口径(16.3) 器高(9.4以上)	胎土：白色粒子、褐鉄粒、角閃石、小石、砂粒、石英。整形：胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/2。14号住居址、No.3。
3	坏	口径(13.9) 器高 4.9	胎土：白色粒子、褐鉄粒、角閃石、砂粒、小石。整形：底部外面ヘラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/2。14号住居址西ビット。

(2) 前田甲遺跡B地点の遺物

B地点第3号住居址遺物観察表 (第39図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径 15.8 器高 23.8	胎土：石英、褐鉄粒、白色粒子、角閃石、砂粒。整形：胴部外面上半ハケ調整、下半ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面黒斑。残存量：2/3。3号住居址、No.3。
2	甕	口径 13.2 器高(11.4以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石、砂粒。整形：胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部内外面ス付着。残存量：1/2。3号住居址、覆土。
3	埴	口径 9.7 器高 9.3	胎土：白色粒子、角閃石、褐鉄粒、石英、砂粒。整形：胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ、有段口縁。焼成：普通、胴部及び底部外面炭化物付着。残存量：完形。3号住居址、No.1。
4	小埴	口径 9.2 器高 6.9	胎土：褐鉄粒、石英、角閃石、白色粒子。整形：胴部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部黒斑。残存量：3/4。3号住居址、No.3。
5	埴	口径 不明 器高(9.7以上)	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形：胴部及び底部外面ヘラ削り、胴部内面ナデ。焼成：残存量：普通。胴部完形、口縁部欠損。3号住居址、No.9。
6	坏	口径 14.2 器高 5.3	胎土：白色粒子、褐鉄粒、角閃石。整形：底部外面ヘラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ、焼成：普通。内面から口縁部に炭化物付着。残存量：ほぼ完形。3号住居址、No.8。
7	高坏	口径 13.4 器高 10.2	胎土：褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子。整形：坏底部外面ヘラ削り、坏内面暗文状ヘラ磨き、脚部外面ヘラ削り、脚部内面ヘラ削り。焼成：普通。残存量：2/5。3号住居址、No.10。

B地点第4号住居址遺物観察表 (第39・40図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径 16.5 器高(26.0以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石、砂粒。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：3/4。4号住居址、No 8。
2	小甕	口径 14.5 器高(14.0以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面スス付着。残存量：1/2。4号住居址、No 8。
3	埴	口径 不明 器高(8.2以上)	胎土：褐鉄粒、石英、角閃石。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ。焼成：普通。残存量：1/2。4号住居址、No 6 + 7。
4	小埴	口径 8.0 器高 9.3	胎土：褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子、砂粒。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：2/5。4号住居址、No 15。
5	小埴	口径 9.2 器高 8.6	胎土：褐鉄粒、石英、角閃石、白色粒子、砂粒。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。外面黒斑。残存量：完形。4号住居址、No 11 + 12。
6	埴	口径 不明 器高(7.8以上)	胎土：白色粒子、小石、石英、褐鉄粒、角閃石。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、底部凹む。焼成：普通、外面黒斑。残存量：1/2。4号住居址、No 17。
7	高坏	口径 18.3 器高 15.4	胎土：白色粒子、角閃石、褐鉄粒、小石、石英。整形：坏底部外面へラ削り、坏口縁部外面へラ削り及びびナデ、坏部内面ヨコナデ、脚部外面へラ削り、脚部内面ナデ。焼成：普通。残存量：脚一部欠損。4号住居址、No 7。
8	高坏	口径 17.6 器高(13.0以上)	胎土：褐鉄粒、石英、角閃石、白色粒子、砂粒。整形：脚部外面へラ削り、脚部内面ナデ、坏底部外面へラ削り、坏内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：脚部底欠損。4号住居址、No 16。
9	高坏	口径 20.7 器高(5.7以上)	胎土：白色粒子、角閃石、褐鉄粒、石英。整形：坏底部外面へラ削り後ヨコナデ、坏部内面ヨコナデ。焼成：普通、坏外面黒斑。残存量：1/2。4号住居址、No 1。
10	高坏	口径(16.4) 器高(6.2以上)	胎土：白色粒子、褐鉄粒、角閃石、砂粒。整形：坏底部外面へラ削り後ヨコナデ、坏部内面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/4。4号住居址、No 4。
11	坏	口径(13.3) 器高 4.8	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形：底部外面へラ削り後指頭圧調整、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/3。4号住居址、覆土。
12	台付 甕	口径 不明 器高(6.2以上)	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、砂粒。整形：脚部外面へラ削り、脚部内面ナデ。焼成：普通。残存量：脚部のみ。4号住居址、No 14。

B地点第5号住居址遺物観察表 (第40図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径(23.0) 器高(22.4)	胎土：白色粒子、角閃石、砂粒、小石。整形：底部及び胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面黒斑。残存量：1/3。

B地点第6号住居址遺物観察表 (第41・42図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径 18.5 器高 38.9	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、砂粒。整形；胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面黒斑。残存量：ほぼ完形。6号住居址、No5。
2	甕	口径 15.6 器高 36.6	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石、砂粒、小石。整形；胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面黒斑。残存量：3/4。6号住居址、No12+20 (No20主体)。
3	甕	口径 16.9 器高 31.9	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石、小石。整形；胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：完形。6号住居址、No13+15 (No13主体)。
4	小甕	口径 15.7 器高 18.3	胎土：褐鉄粒、砂粒、石英、角閃石、白色粒子。整形；胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：ほぼ完形。6号住居址、No14+15 (No14主体)。
5	鉢	口径 19.8 器高 11.8	胎土：褐鉄粒、石英、角閃石、白色粒子、砂粒。整形；胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：ほぼ完形。6号住居址、No11+13+17。
6	甕	口径 28.0 器高 27.0	胎土：褐鉄粒、石英、角閃石、白色粒子、砂粒。整形；胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部外面及び口縁部黒斑。残存量：ほぼ完形。6号住居址、No5。
7	坏	口径 13.6 器高 4.7	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、口縁部内外面炭化物付着、内外面剥離。残存量：完形。6号住居址、No5。
8	坏	口径 13.4 器高 4.6	胎土：白色粒子、角閃石、褐鉄粒、石英。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：3/4。6号住居址、No21。
9	坏	口径 14.5 器高 4.6	胎土：白色粒子、角閃石、褐鉄粒、砂粒、小石、石英。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、内面炭化物付着。残存量：完形。6号住居址、No6。
10	坏	口径 13.4 器高 4.0	胎土：白色粒子、褐鉄粒、角閃石、石英。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部外面及び口縁部黒斑。残存量：ほぼ完形。6号住居址、No8。
11	坏	口径 12.8 器高 3.7	胎土：白色粒子、褐鉄粒、角閃石、石英。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部外面黒斑。残存量：5/6。6号住居址、No16。
12	坏	口径 12.4 器高 3.8	胎土：褐鉄粒、石英、角閃石、白色粒子、小石。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、内面スス付着。残存量：完形。6号住居址、No2。
13	坏	口径 12.1 器高 3.4	胎土：白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：3/4。6号住居址、No3。

番号	器種	法 量	特 徴
14	坏	口径 12.0 器高 3.0	胎土：白色粒子、褐鉄粒、角閃石、石英。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；ほぼ完形。6号住居址、№19。
15	坏	口径 12.0 器高 4.3	胎土；褐鉄粒、石英、角閃石、白色粒子。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、内面スス付着。残存量；ほぼ完形。6号住居址、№7。
16	坏	口径 12.6 器高 4.1	胎土；褐鉄粒、石英、角閃石、白色粒子、小石。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、内外面スス付着。残存量；ほぼ完形。6号住居址、№4。
17	坏	口径 12.7 器高 4.4	胎土；白色粒子、角閃石、褐鉄粒、石英、砂粒。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、内外面炭化物付着。残存量；3/4。6号住居址、№10。
18	坏	口径 11.8 器高 4.4	胎土；白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；完形。6号住居址、№9。
19	坏	口径(9.2) 器高 6.1	胎土；白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石、砂粒。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；2/3。6号住居址、№1。
20	坏	口径 9.5 器高 3.6	胎土；白色粒子、褐鉄粒、角閃石、石英、砂粒。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、底部外面黒斑。残存量；完形。6号住居址、№17。

B地点第9号住居址遺物観察表 (第43回)

番号	器種	法 量	特 徴
1	小甕	口径 12.6 器高 13.0	胎土；褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形；胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、胴部外面黒斑。残存量；2/3。9号住居址、№1。
2	坏	口径 17.4 器高 9.3	胎土；白色粒子、褐鉄粒、角閃石、石英。整形；底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、底部外面炭化物付着。残存量；ほぼ完形。9号住居址、№2。

B地点第10号住居址遺物観察表 (第43回)

番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径(17.0) 器高(8.1以上)	胎土；褐鉄粒、角閃石、石英、砂粒。整形；胴部外面へラ削り後ハケ調整、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/5。10号住居址、覆土。
2	甕	口径(14.0) 器高(10.0以上)	胎土；褐鉄粒、白色粒子、角閃石。整形；胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；1/3。10号住居址、№8。
3	甕	口径(23.1) 器高 6.6	胎土；褐鉄粒、白色粒子、石英。整形；底部及び胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部外側折り返し後指頭圧及びナデ。焼成；普通。残存量；1/3。10号住居址、覆土。

番号	器種	法 量	特 徴
4	高環	口径 16.8 器高(7.1以上)	胎土：褐鉄粒、角閃石、石英、砂粒。整形：坏部外面へラ削り、坏部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/2。10号住居址、№2 + 5 (№2 主体)。
5	環	口径 8.9 器高 3.4	胎土：白色粒子、褐鉄粒、角閃石、石英、小石、砂粒。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/2。10号住居址、№4。
6	手捏	口径 5.6 器高(4.0)	胎土：白色粒子、褐鉄粒、小石、砂粒、石英。整形：内外面とも指頭圧及びナデ。焼成：普通。残存量：1/2。10号住居址、覆土。

(3) 前田甲遺跡A地点保存地区の遺物

A地点保存地区第100号住居址遺物観察表 (第44図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	壺	口径(13.0) 器高(6.5以上)	胎土：褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石。整形：口縁部内外面ヨコナデ、有段口縁。焼成：普通。残存量：口縁部2/3のみ。
2	小壺	口径(10.0) 器高 7.0	胎土：褐鉄粒、角閃石、白色粒子、砂粒。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/2。
3	環	口径(12.0) 器高 5.5	胎土：白色粒子、角閃石、褐鉄粒、砂粒、小石。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：1/3。

A地点保存地区第104号住居址遺物観察表 (第44図)

番号	器種	法 量	特 徴
1	壺	口径 21.3 器高 28.0	胎土：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、底部外面へラ削り、口縁部内外面ヨコナデ、全体にいびつ。焼成：普通、胴部及び口縁部炭化物付着。残存量：ほぼ完形。№1。
2	壺	口径 20.0 器高 24.9	胎土：褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子。整形：胴部及び底部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部黒斑。残存量：ほぼ完形。№1。

A地点保存地区第119号住居址遺物観察表 (第44図)

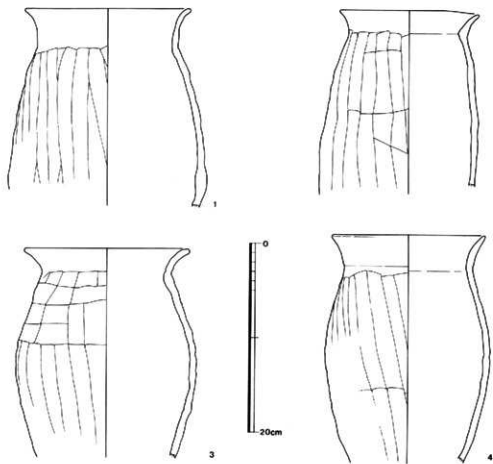
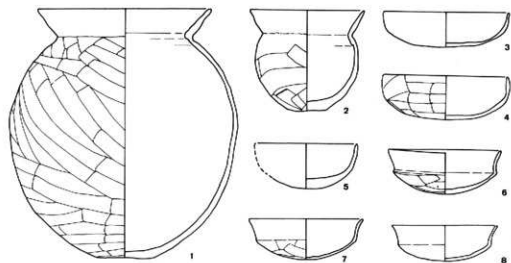
番号	器種	法 量	特 徴
1	壺	口径(8.5) 器高 11.5	胎土：褐鉄粒、角閃石、白色粒子。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部内面炭化物付着。残存量：1/3。
2	高環	口径(12.8) 器高(9.3以上)	胎土：褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子、砂粒。整形：坏部外面へラ削り、坏部内面ナデ、脚部外面へラ削り、孔部4カ所。焼成：普通、黒斑。残存量：1/2。
3	環	口径(10.8) 器高 4.1	胎土：褐鉄粒、白色粒子、角閃石、石英。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、底部外面黒斑。残存量：1/3。

A地点保存地区第122号住居址遺物観察表（第44図）

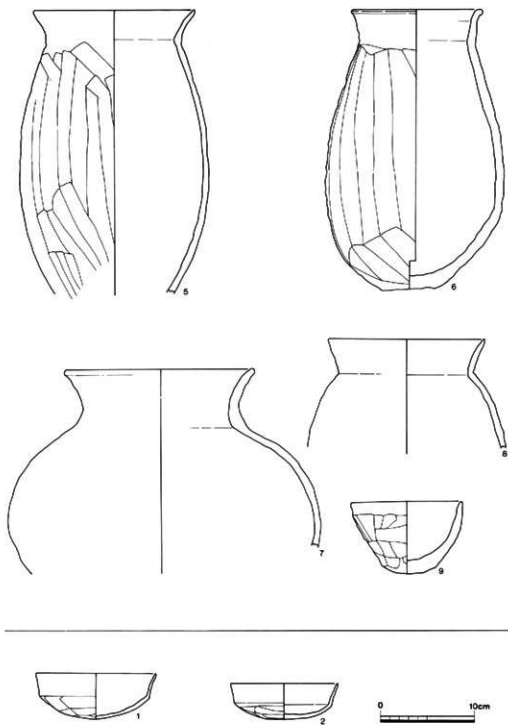
番号	器種	法 量	特 徴
1	甕	口径 23.6 器高 26.0	胎土：褐鉄粒、角閃石、白色粒子、砂粒。整形：胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通、胴部黒斑。残存量：4/5/カマド。
2	坏	口径 12.6 器高 3.9	胎土：白色粒子、褐鉄粒、角閃石、石英、砂粒。整形：底部外面へラ削り、底部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成：普通。残存量：2/3。カマド。

(4) 前田甲遺跡出土その他遺物（第45図）

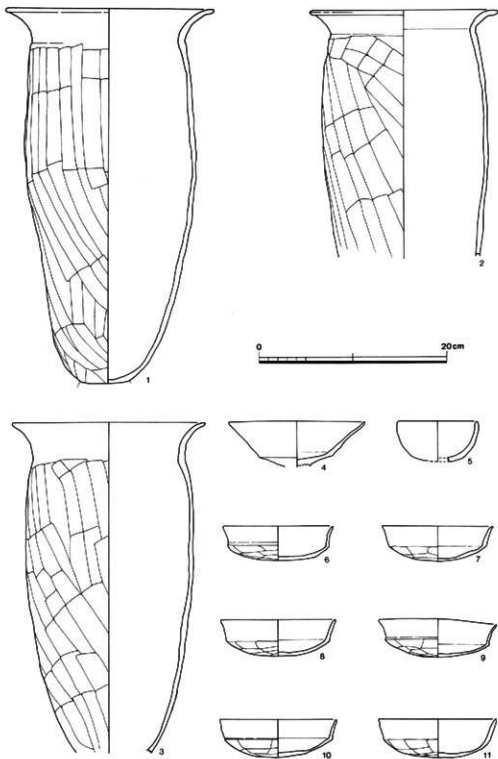
番号	器 種	特 徴
1	打製石斧	剥片を素材とし、両面から荒く整形を行い、両側辺は叩き調整により、えぐり部を形成している。絹雲母片岩製。表採。全長13.9cm、幅8.3cm、厚さ2.0cm。
2	磨製石斧	全面を小たつき整形後に研磨している。刃部の歯こばりが顕著。頭部は欠損。蛇紋岩製。A地点保存地区採集。全長8.0cm以上。幅4.3cm、厚さ2.5cm。
3	凹 石	偏平な自然礫を素材とする。片面を割り、自然面側を使用面としている。凹部は16カ所に観察される。砂岩製。表採。全長11.2cm、幅11.6cm、厚さ3.2cm。
4	石 鏃	凹基有茎式で、両面より押圧剝離をほどこす。風化が顕著。玄武岩製。前長2.5cm、幅1.2cm、厚さ0.4cm。A地点第9号住居址、覆土。
5	石 鏃	凹基無茎式で、両面より押圧剝離により整形後、縁辺部を調整。片脚欠損。黒曜石製。全長2.2cm、幅1.7cm以上。厚さ0.3cm。A地点第9号住居址、覆土。
6・7	白 玉	試掘調査時にA地点第4号住居址の覆土内より出土した。ともに寛削りのまま穿孔したもので、未成品。滑石製。6は直径1.7cm、厚さ1.1cm。7は直径1.8cm、厚さ1.3cm
8	鳥形土製品	粘土塊をつまみあげ、全体を形づくったもので、羽根部は粘土を覆う状態で接合している。脚部は円柱状に仕上げているが、手捏ね状で荒い整形。尾部と頭部が欠損。全長6.0cm、高さ4.7cm、幅2.9cm。



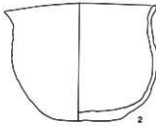
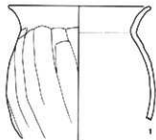
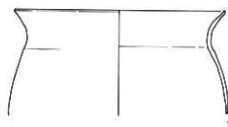
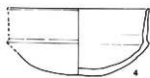
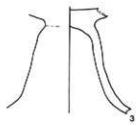
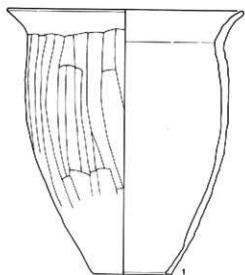
第30回 前田甲遺跡A地点第1・2号住居址出土土器実測図



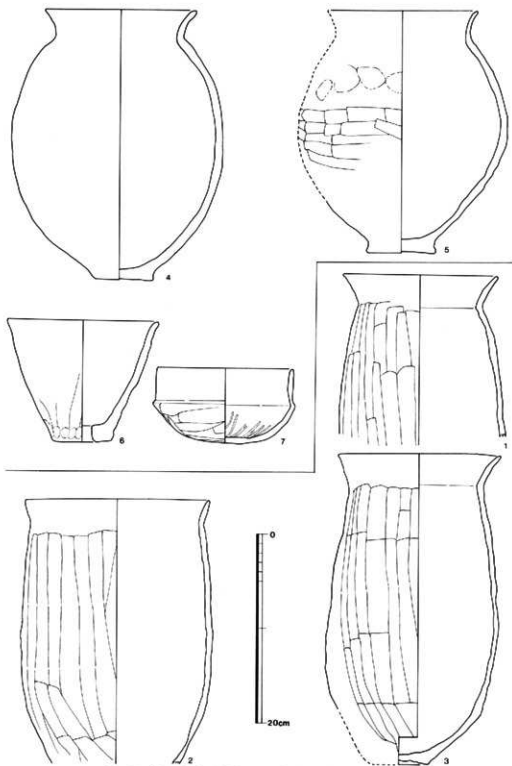
第31图 前田甲遺跡A地点第2・3号住居址出土土器実測図



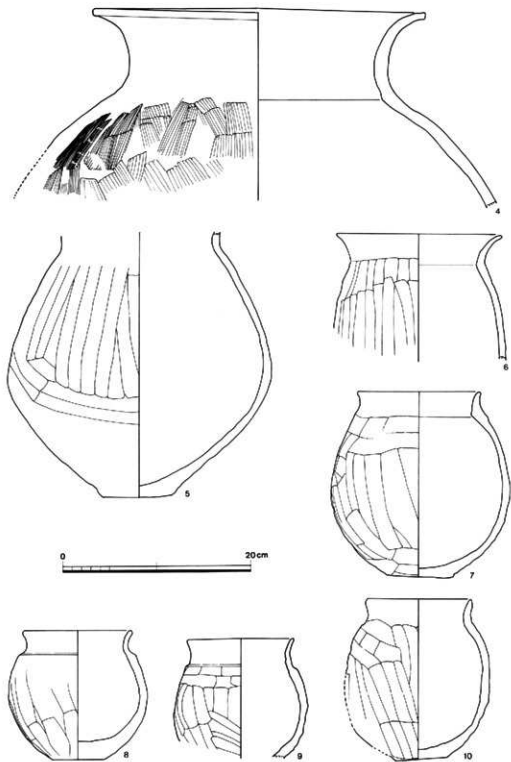
第32图 前田甲遺跡A地点第4号住居址出土土器実測圖



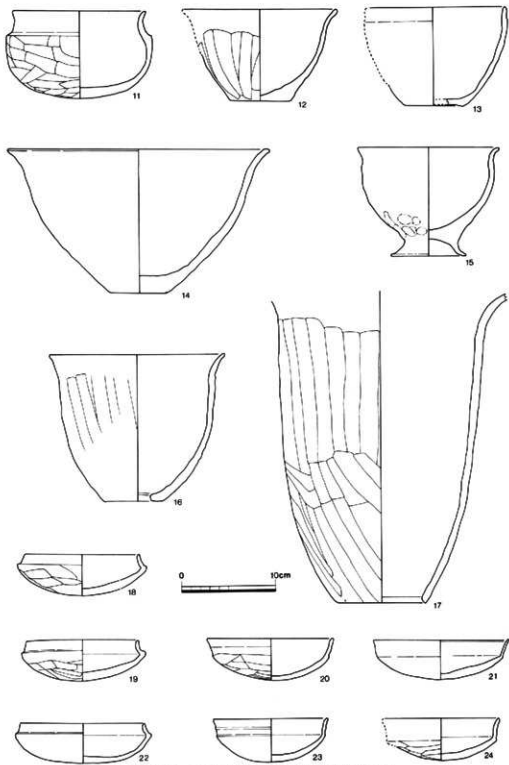
第33图 前田甲遺跡A地点第5~7・9a号住居址出土土器実測図



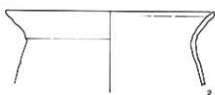
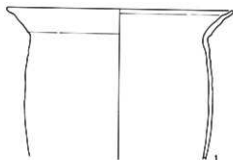
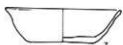
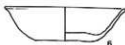
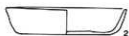
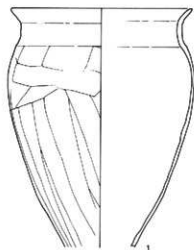
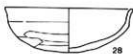
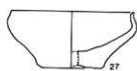
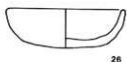
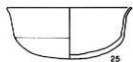
第34图 前田甲遺跡A地点第9a・9b号住居址出土土器実測図



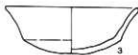
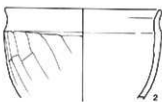
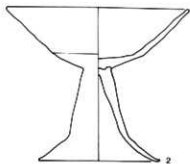
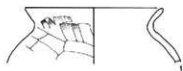
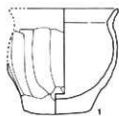
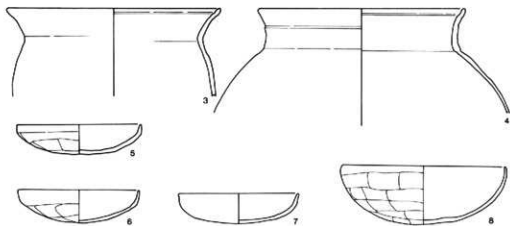
第35图 前田甲遺跡A地点第9b号住居址出土土器尖測図



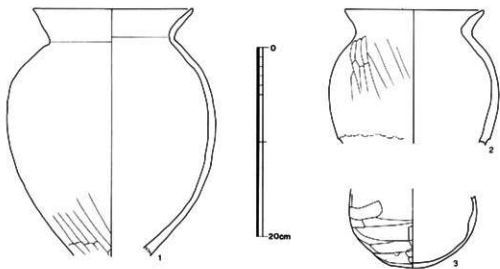
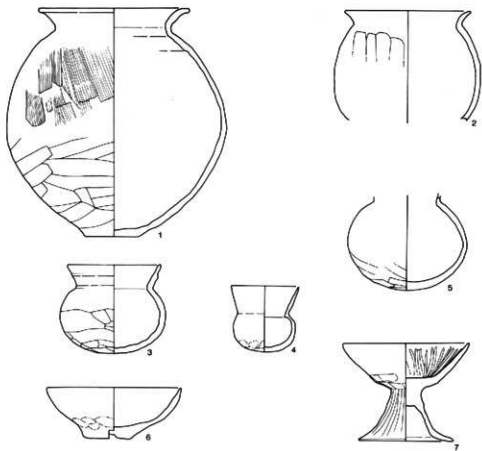
第36图 前田甲遺跡A地点第9b号住居址出土土器実測図



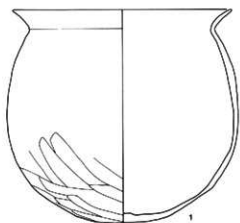
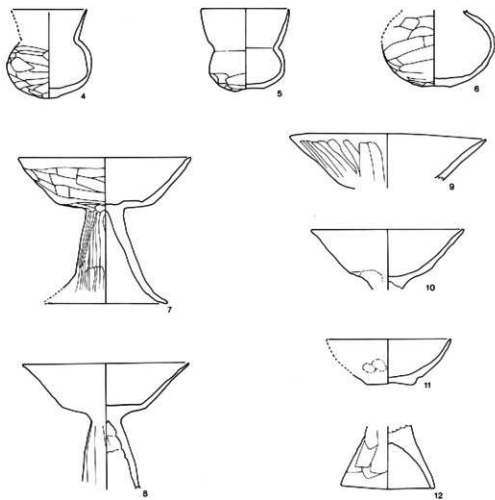
第37图 前田甲遺跡A地点第9b・9c・11号住居址出土土器実測図



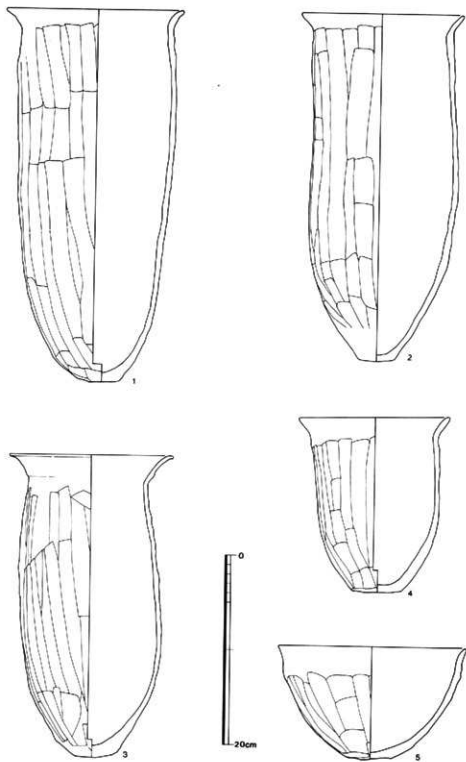
第38图 前田甲遺跡B地点第11~14号住居址出土土器実測图



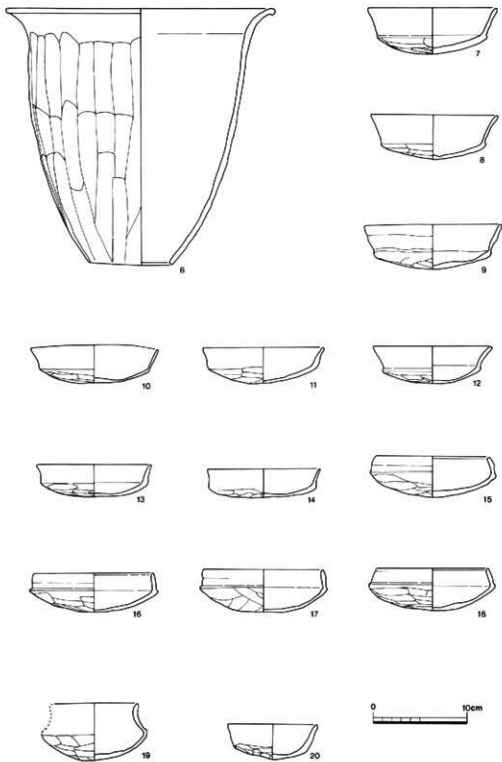
第39图 前田甲遺跡B地点第3・4号住居址出土土器実測図



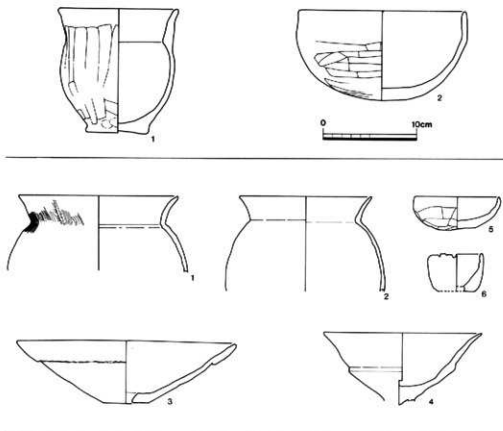
第40图 前田甲濃跡B地点第4号住居址出土土器実測図



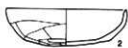
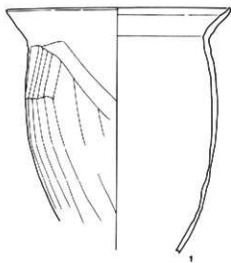
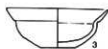
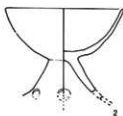
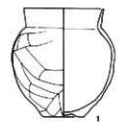
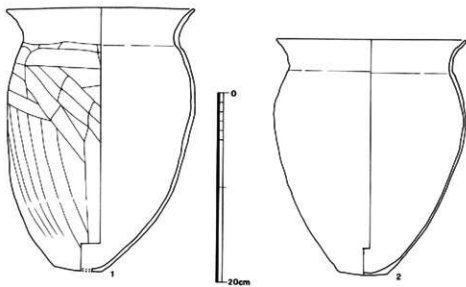
第41图 前田甲遺跡B地点第6号住居址出土土器実測図



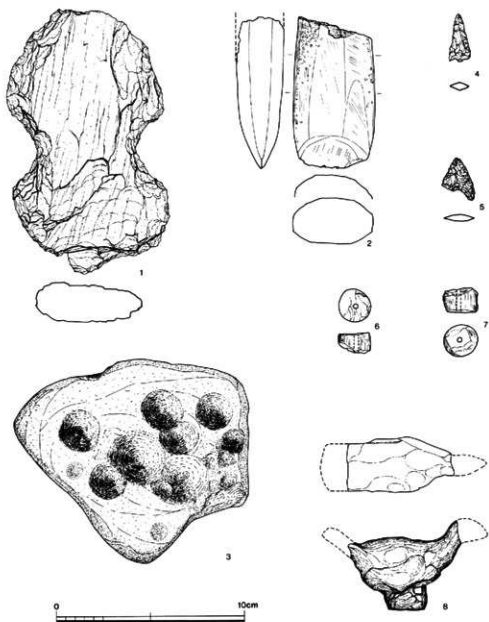
第42图 前田甲道跡B地点第6号住居址出土土器実測图



第43図 前田甲遺跡B地点第9・10号住居址出土土器実測図



第44图 前田甲遺跡A地点第100・104・119・122号住居址出土土器実測図



第45圖 前田甲遺跡出土石器類等実測圖

V 付・将監塚東遺跡(松島甲地区)の調査

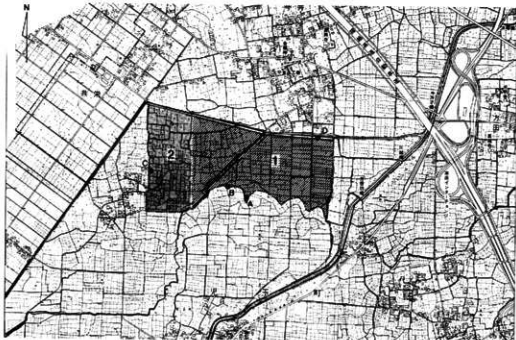
1 調査の経緯と経過

県営は場整備事業見玉北部地区の本庄市側にかかる事業は平成2・3両年度に実施された。この内前者の年度にかかる埋蔵文化財の保存事業は、今井条里並びに前田甲遺跡の発掘調査をなしたが、これらの西側は平成3年度に調査を実施した(第46図)。

当該地区は本庄106号遺跡及び、本庄149号遺跡としてあらかじめ埼玉県遺跡地図に登録されていた地域である。両遺跡の試掘調査は平成4年2月から3月にかけて実施した。しかし、106号遺跡の範囲内には遺構・遺物がまったく検出されなかった。

この傾向は149号遺跡においても同様で、広範囲にわたって遺構・遺物が皆無に近い状態であることを確認したにとどまる。ただし、事業予定地内の西端において古墳時代の住居址を1軒のみ検出しており、周辺を拡大して精査したが、時期不詳の溝1本を検出したにとどまる。

本庄149号遺跡は条里遺跡として登録されていたが、該当する遺構は皆無で、地表面に土師器微小片が散布するすぎないことが判明した。また、唯一の住居址は、西側に隣接する見玉町下真下の集落下が遺跡の中心部と推定され、本住居址は東限界に位置するものと考えられる。したがって、本住居址を内包する遺跡の名称は将監塚東遺跡とし、本庄149号遺跡とは別に本庄53-178号遺跡として変更増補し新規に登録した。また、遺跡の中心部が見玉町側にあたるため、本地点は松島甲地区とする。



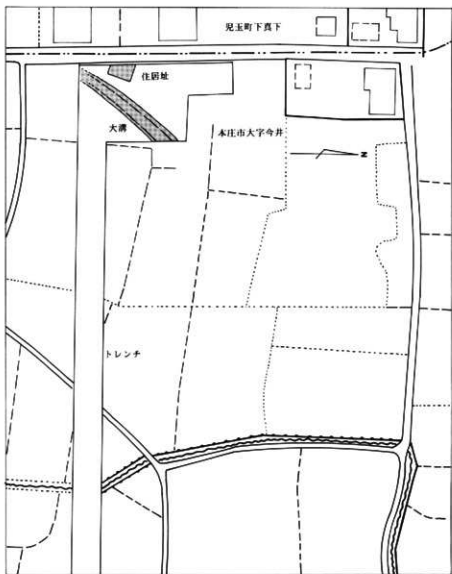
第46図 平成3・4年度事業実施位置図(1・3年度 2・4年度 A・前田甲遺跡A地点 B・前田甲遺跡B地点 C・将監塚東遺跡 D・取付け道路大誘導地)

第46図 平成3・4年度事業実施位置図

2 遺構と遺物

将監塚東遺跡(松島甲地区) A号住居址は、西側が調査範囲外にあたり、約2/3を開掘したにとどまる。主軸をやや南に傾く一辺4.0mの方形プランを呈する。壁高20cm。南コーナーに接して貯蔵穴が検出され、径20cm、深さ20cmを測る。4本主柱穴も検出されている。床面中央よりに焼土が観察され、炉跡と推定される(第47図)。

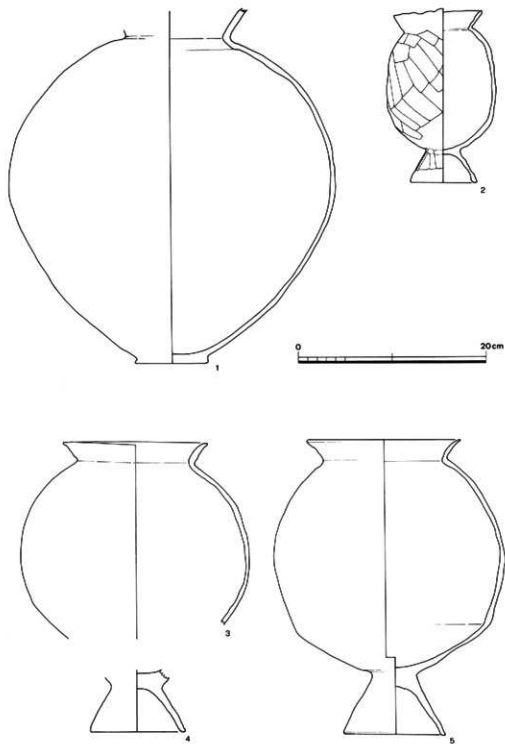
遺物は土師器の甕、台付甕、高坏、鉢、小埴などで、いずれも廃棄遺棄状態で床面上より出土した。和泉Ⅰ式に所属する。



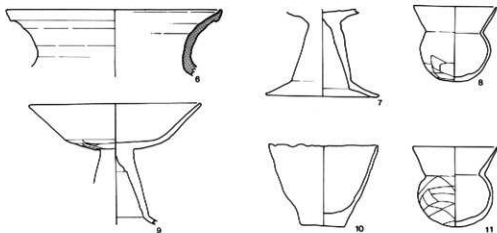
第47図 将監塚東遺跡松島甲地区調査位置図(1:1,000)

将監塚東遺跡A号住居址出土遺物観察表（第48・49図）

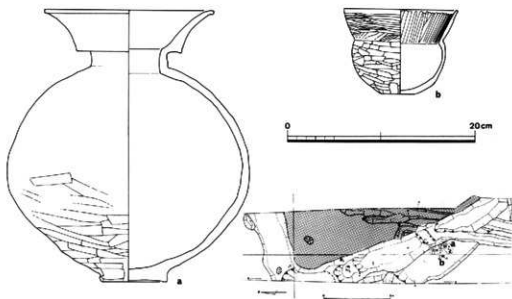
番号	器種	法 量	特 徴
1	壺	口径 不明 器高(37.5以上)	胎土；褐鉄粒、石英、白色粒子、砂粒、小石。整形；底部外面へラ削り、胴部下半外面ナデ後へラ磨き、上半ナデ、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、胴部外面黒斑。残存量；口縁部以外ほぼ完形。№10。
2	台付 小壺	口径 9.2 器高 18.3	胎土；白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石、砂粒。整形；台部外面ナデ後指頭圧調整、胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通、胴部外面黒斑。残存量；ほぼ完形。№19。
3	壺	口径 15.2 器高(20.7以上)	胎土；褐鉄粒、白色粒子、砂粒、石英、角閃石、小石。整形；胴部外面へラ削り、胴部内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；3/4。№18。
4	台付 壺	口径 不明 器高(5.7以上)	胎土；白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形；台部外面ナデ、台部内面ナデ。焼成；普通。残存量；台部のみ。№4。
5	台付 壺	口径 16.2 器高 31.2	胎土；褐鉄粒、白色粒子、石英、角閃石、砂粒。整形；胴部外面へラ削り後ナデ、焼成；普通、胴部外面黒斑。残存量；ほぼ完形。№17。
6	壺	口径(22.8) 器高(6.9以上)	胎土；石英、白色粒子。整形；ロクロナデ。焼成；良好。残存量；口縁部のみ。住居址周辺より表採。
7	高环	口径 不明 器高(9.2以上)	胎土；角閃石、石英、白色粒子、砂粒、小石。整形；坏部内外面ナデ、脚部外面へラケズリ、内面ナデ。焼成；普通。残存量；坏部欠損。№21。
8	小罎	口径 8.7 器高 7.9	胎土；白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形；底部外面及び胴部へラケズリ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；ほぼ完形。№28。
9	高环	口径 18.2 器高(12.7以上)	胎土；白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形；坏部外面底部へラケズリ、口縁部内外面ヨコナデ、脚部外面へラケズリ。焼成；普通。残存量；脚部底欠損。覆土。
10	鉢	口径 11.6 器高 8.6	胎土；白色粒子、褐鉄粒、石英、角閃石。整形；胴部外面へラケズリ及びナデ、内面ナデ。焼成；普通。残存量；ほぼ完形。№8。
11	小罎	口径 9.0 器高 8.4	胎土；褐鉄粒、角閃石、石英、白色粒子、砂粒。整形；胴部外面へラケズリ、内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。焼成；普通。残存量；ほぼ完形。№2。



第48图 将監塚東道跡(松島甲地区)A号住居址土器実測図



第49図 得監塚東遺跡（松島甲地区）A号住居址土器実測図



〈解説〉

上図は、平成3年度に実施した県営畑上里南部地区にかかる今井諏訪遺跡4-1方形周溝墓より出土した土器である。今井諏訪遺跡は、五領式期の周溝墓群であるが、その被葬者と集落の関係は不明であった。同遺跡に最も近接する五領式期の住居址は、東方の社長路遺跡南地点のみであった。しかし、前田甲遺跡においても五領式期の住居址を検出したことにより、今後今井諏訪遺跡の周溝墓群と集落の関係は再検討の余地を残すこととなった。

文献：本庄市教育委員会 1992『今井諏訪遺跡発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告 第21集

VI 総 括

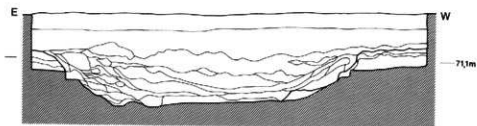
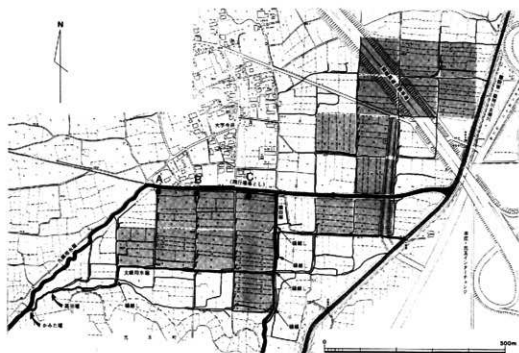
2カ年にわたる帛宮ほ場整備事業児玉北部地区にかかる埋蔵文化財保存事業の成果としては、以下のとおり要約できる。

(1) 今井条里遺跡の成果

- 1、本遺跡は事業予定地内の大半に所在し、当初本庄149号遺跡として登録されていた。しかし、西半地域は無遺構・無遺物地帯であることが判明し、事業予定地内のほぼ中央部を北東流する九郷用水堀の東側にかけてにかざられることが判明した。しかも、地形図上からも事前に伺えたごとく、1坪分の地割りを示す部分は限られている。ただし、用水堀から各坪なみまで引水される溝は、猿尾状を呈し、特殊な遺構であることが判明しているため、部分的に測量調査及び発掘調査を実施したところ、現状の用水堀の下に旧用水堀が重複していることが判明した。したがって、本事業予定地内にかかる条里遺構は、面的な発掘調査を実施していないものの、地形図に反映された用水等は今後も当該遺構の調査を行う上で貴重な資料といえよう。
- 2、今井条里遺跡の西端にあたる箇所で行った試掘調査（第3図EⅡグリット）では、江戸時代に開拓された水田面と畦が確認された。これは条里1坪分の痕跡を地形図上に明瞭に残す仮設定11坪の西側が、江戸時代に至って開拓されたことを指示するものであるが、明瞭に坪並が観察される仮設定1～9及び、11坪においても、その引水状態からすべての坪並が一度に施工され、開拓されたものか依然として疑問を残す結果となった。
- 3、仮設定1坪の北縁に接して工業団地の取付け道路建設事業に伴う試掘調査を実施したが、現状の地表面で観察される条里の坪並とはかなりずれた位置で、南北に走る大規模な溝を検出した（第50図C）。このことから、現条里下に別の条里もしくは条里以前の開拓にかかる用水溝の存在する可能性を暗示している。

(2) 前田甲遺跡の成果

- 1、本遺跡周辺は従来より条里遺跡として登録されており、集落跡は存在しないものと考えられていた。しかし、ほ場整備事業にかかる諸調査により、わずかな微高地においても多くの集落が立地することが判明し、女堀川左岸の平地における集落分布の在り方が新たな課題となった。
- 2、前田甲遺跡は微高地の南に張り出した舌状部分に営まれた集落跡である。2カ所の舌状部分（A・B地点）の間は児玉町側の微低地となるが、A地点の住居址は児玉町側にかかる微低地方向にも遺構の延長が確認されているから、両地点間も連絡として住居址が存在した蓋然性は大きい。こうした点から本遺跡は南側に接する児玉町藤塚遺跡と対をなすもので、両者を別個に報告することは、古代地域史を解明する上で支障を来すことになるが、ここではあえて児玉町側の未発表資料は含めず現状報告にとどめる。
- 3、本遺跡は一部現状保存することを目的として、範囲確認のため表土剥ぎにとどめた地域があるので、その全容を把握するには至っていない。したがって、資料的な欠落は余儀なくされることを前



取付け道路B地点大溝



取付け道路C地点大溝

第50図 取付け道路試掘調査地（上）及び大溝実測図（下）

提に住居址の変遷を以下にまとめる（第51図）。

検出された住居址の時期については、旧態依然とした名称ではあるが、五領、和泉、鬼高、真間、国分式に所属する土師器をそれぞれに保有する。

五領式期に所属するものはA地点の第119号住居址で、第10号住居址も同期に帰属するものと考えられる。第I段階とする。

和泉式の住居址はB地点に集中する傾向にある。第3・4号住居址は、いずれも同期では古く位置づけられるもので、和泉I式にあたる。第II段階とする。

鬼高式期に入ると最古のものは、A地点の第5・9a号住居址より鬼高Iの新相に所属するものが確認されている。第III段階とする。TK47型式併行期と考えられる。

鬼高IIの住居址はA地点を中心に第2・9b・4号住居址、B地点第6号住居址に観察され、これら自体にも新旧関係が認められる。第2号住居址の壘はラグビーボール状を呈しており、坏が出土しなかったが、これに伴うものと推定されるものは、第1号住居址より出土しており、第IV段階とする。他の類例からMT15型式併行期と推定される。

第9b号住居址は壘の口縁部が広口化しており、第V段階とする。TK10型式併行期と考えられる。

第4・6号住居址の壘は口縁部に最大直径を持ち、著しく長胴化したもので、共伴する坏は小形化したものが観察され、第VI段階とする。TK209型式に併行するものと思われるが、一部はTK43型式併行の可能性もある。

つづき真間式期に該当するものはA地点第1号住居址より検出されており、第11号住居址も同様である。第VII段階とする。

国分式はA地点の第9c号住居址及び、保存地区において第104号住居址よりカマドの袖壘として転用されたものが出土している。第VIII段階とする。

以上が本遺跡における住居址の変遷で、少なくとも8段階にわたることが判明した。この編年でも明白であるように、和泉式期の後半及鬼高式期の初源で、須恵器のTK208からTK23の段階にかけてブランクがあり、また、MT85、TK43併行期と、鬼高式最終末で準上りI・IIに併行する段階が欠落している。あるいは、多期にわたる真間式期、国分式期はそれぞれの型式で1段階程度確認されたにとどまり、五領式期以降国分式期まで認められるものの、時間的な欠落は明瞭である。

この欠落期間が未調査地域もしくは児玉町側に埋没しているものか現状では不明である。しかし、一遺跡において五領式期から国分式期までの住居址を保有するものは、極めて希な類例であり、あるいは歴史的集落的な様相を秘めるものといえよう。

こうした観点は問題を残すものと思われるが、数十年を經過して再びかつての集落内に新たな住居址が建築される経緯から類推されることは、時間的断絶性があるとはいえ、両者になんらかの領域意識があったからであろう。したがって、広域な領域内での同一集団の移動も考慮しておく必要がある。しかしまた、土師器の時期区分で1段階に限定して同段階の住居址の予測される軒数を考慮しても、量的にはかなり少ないことが示唆され、このかぎりにおいては規模的に核村的な状況を呈していたとは考えがたい。いずれにせよ、このような長期にわたる集落跡の研究は、周辺における集落跡の動向と呼応する形で処理することが必然的な命題といえる。

- 4、今回の調査地域では五領式期を初源とする集落跡が確認された。周辺の弥生時代の集落が丘陵部や谷津状地形に限定された地理的立地を示すのに対し、本遺跡を含む女堀川周辺の氾濫源では五領式期に至って多くの集落が出現する。このような集落立地の変化は、五領式期に農耕生産の場が拡大（開拓）されたことを暗示するものであるが、これを契機としてほぼ恒常的に国分式期に至るまで継続する集落遺跡は、東方の下田・七色塚遺跡が存在する程度で、量的には極めて限定される。また、後張遺跡においては五領・和泉式期から鬼高式期前半まで継続し、以降は近隣の川越田遺跡と梅沢遺跡に移動している模様であるが、このような性格の遺跡を歴代集落として位置づけた時、周辺における和泉式期や鬼高式期以降に出現する集落との関係を考える上で重要な遺跡といえよう。
- 5、前田甲遺跡B地点の第3号住居址より出土した鳥形土製品は、古墳より出土する鳥形埴輪や鳥形土製品、あるいは鳥形木製品と同様に、祭祀に関連するものと考えられる。特に第3号住居址は最も大形の住居址であり、いずれの住居址内でも出土するものではないから、やはり特殊な遺物といわざるを得ない。
- 6、前田甲遺跡とその周辺では縄文式土器、同時期の石器が出土した。しかし、これにかかる遺構は皆無であった。おそらくその後の浸蝕や開拓等で消滅した可能性が示唆される。

以上のとおり、事業予定地内の大半の地域にかかる条里制遺構に関しては、事業工程自体が面的工事にとどまり、発掘調査の機会がなかったため、特に多くの成果を得るには至らなかったが、新たに発見された前田甲遺跡については、本庄市側における女堀川左岸地域の古墳時代集落跡の動向を追跡する手掛かりが得られた点で貴重な資料となった。

おわりに

昭和60年度の県営ほ場整備事業見玉南部地区をかきりに、県営畑総上里南部地区、県営九郷かん排、県営ほ場見玉北部地区とほぼ6年間にわたる長期の埋蔵文化財保護事業も、ここに終止符がうたれることとなった。6年間には新たな遺跡の発見や、本庄市における古代史解明の糸口となる遺構や遺物資料にめぐまれた。

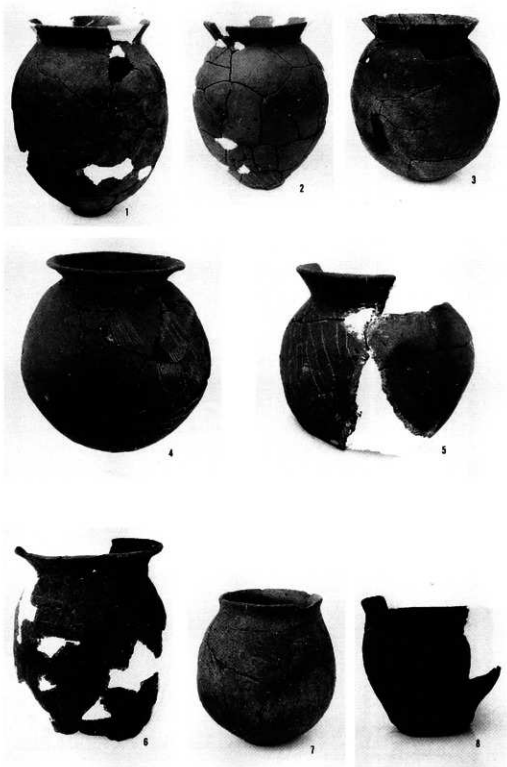
ところで、本庄市例規集を紐とくと、本庄市文化財保護係の責務は、1、文化財保護関係委員会に関すること。2、文化財の発掘及び調査に関すること。3、文化財の保存、管理及び活用に関すること。4、文化財の指定及び解除に関すること。5、文化財の保護思想の普及に関すること。6、歴史民俗資料館の管理に関すること。7、その他文化財に関すること。の、7項目からなる。

埋蔵文化財の保護はその一端に過ぎず、これらの業務を分担しつつ、整理作業と成果の報告をできたことは、一重に細かい整理作業を主導的に行なってくださった埋蔵文化財センターの作業員のみなさま方によるところが大きい。文末ではありますが、ここに記して感謝致します。

なお、紙面の関係上、詳細を報告できなかった内容については、後日あらためて記することにし、ここで筆を置くことにする。

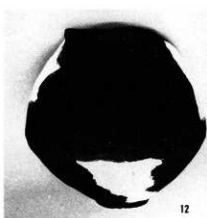
編集子

写 真 图 版



前田甲遺跡出土土器 (突類)

PLATE-2



前田甲遺跡出土土器 (甕類)



PLATE-4



21



22



23



24



25



26



27



28



29

前田甲遺跡出土土器 (fragment)



30



31



32



33



34



35



36

前田甲遺跡出土土器 (寛・埴類)

PLATE-6



前田甲遺跡出土土器（鉢・碗・器台類）



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55

PLATE-8



前田甲遺跡出土土器 (坏類)

前田甲遺跡発掘調査報告書～遺物編～

平成7年3月25日 印刷

平成7年3月31日 発行

発行 本庄市教育委員会
埼玉県本庄市銀座3-5-3

印刷 朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67
